

2025（令和7）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和7年7月9日（水）午後2時00分～
- 会 場 はまなす会館
- 出席者 23人

〔市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）釧路都心部まちづくり計画について
- （2）釧路市自然と太陽光発電施設の調和に関する条例の制定について
- （3）釧路市の財政状況及び事務事業の見直しについて
- （4）水道料金の改定について

●意見交換

【参加者A】

A B C 3案ありますが、それぞれの建設費と償還方法、それと高架橋がどこからどこまでなのかを教えてください。

【都心部まちづくり担当部長】

建設費なのですが、A 3でお配りしている資料の右下に、過去に市独自で算出した概算事業費というものがあります。鉄道高架につきましては平成28年に算出した金額で96億円という費用になっています。そして、人件費や資材、物価の高騰等もありましてこれよりもだいぶ上がっていることが想像されます。詳しい全体事業費についてはJ R北海道に委託して算出していただかないと、細かい線路の切り回し等の仮設がありますので今全体額がいくらになるということはこの場ではお示しできません。また、どこからどこまで高架になるかというのは、お配りした資料の5ページは少し白黒で見づらいですが、①番が北中跨線橋で⑥番が木工所踏切なのですが、左右少し延びたところで、全体で約2.5キロの延長を想定しているところです。

【参加者B】

今回の説明会非常に楽しみにしていたのですが、呆れました、びっくりしました。都市経営のまちづくり計画と言って、これから土地に人を呼ぶと言っているわけですが、一方では、「人口減少で収入も大変になりこれから大変で、市民負担は下水道上水道含めて、たくさん負担してもらわなければならないです

よ」というようなことを言っています。一方で、「まちづくりで高架化しますよ」ということはおかしいです。とんでもない話です。結局北大通の地権者や工事関係者のための工事をずっとやろうとしています。20年30年前から日本中の各地で新幹線の関係もあるし、いろいろな状況の中で鉄道高架化事業をやっています。そして、まちの再開発も結構やっています。一生懸命昔のように人が通るまちにしましょうみたいなことをやっていますが、全部失敗しています。当たり前です、人はいないのですから。釧路のまちはどこが中心ですかとアンケートを取ったらみんなイオンと言いますよね。なぜそこで旧市街地駅前にどうしても人を集めたがるのでしょうか。人は昔のように公共交通だけで人が動いているわけではなく車ですから、買い物にしても、無料で停める駐車場が広いところがあれば人が行きます。駅前も公園があって、もう少し緑豊かで、無料の駐車場があれば行くこともあるかもしれません。ですが交通体系が昔と変わっており、駅を利用する人はとても減っています。札幌釧路間と言えば帯広から人が乗りますが、釧路からはとてもバラバラです。なぜかということ今は飛行機があります。今札幌便は6便で、もちろん飛行機は小さいですが羽田も6便です。そして、高速道路ができたので、帯広まで行く人が車を使います。そのため、駅という昔の話をして、誰も振り向かないし喜びません。これは昔の北大通にいる地権者、それから一生懸命事業を支えている商工会といったところが喜ぶだけの事業なのではないですか。

これはとんでもないことです。その一方で値上げです、人口減少すると言っていて、同じ口から高架についての言葉が出てくるということは、もう少し頭の中を整理してから行ってはどうでしょうか。

【市長】

まずは楽しみに来ていただいたのに、期待に応えられなくてすみませんでした。その中で我々はどういったまちづくり、懇談会で鉄道高架の話題と財政、事務事業の見直しの課題を挙げさせていただきました。確かにおっしゃるとおり、鉄道高架並びに都心部まちづくりにはかなり巨額な予算が必要になる可能性があります。また、財政の見直しということで我々優先的には市役所の中の見直しを先にやらせていただいて、どうしてもというときに市民サービスは考えていますが、そういった厳しい現状であるということです。そして鉄道高架ですが、実際にこれを進めるべきと言っていますが、私はしがらみは無いです。そういった中で判断させていただいた、考えさせていただいたときに、今の北中跨線橋と旭跨線橋は、幅も片側2車線で広くてすごく複雑な形状をしています。そのため旭跨線橋の方は架け替えとなると非常に大きな予算になることが予想されます。維持費も年々増えてきているような状況にあり、これを何とかしなきゃいけな

いということと、鉄道高架という国としても補助額の大きい事業、国の補助が大きく得られる事業を掛け合わせて我々は今回の都心部まちづくり計画を考えています。決して無駄遣いというか、大きな投資ということは考えていません。土地区画整理も最小限に留めたいということで考えていますし、駅の大きさも見合った大きさにしていこうというようなことで内部では話し合っています。そういったことで何とか準備を進めていきたいなと思います。もちろん皆様のご意見はたくさんいただきたいと思っています。そして、やはり今の車の交通を止めることはできませんし、ＪＲも「赤い星」「青い星」という周遊列車をお金をかけてつくっています。そういったことも含めて我々は今、すべきことを進めなければいけないと思い、皆さんに提案させていただいているところでした。

【参加者Ｃ】

数字で出されている概算事業費についてです。旭跨線橋と北中跨線橋の架け替えに関わるものが平成１９年で最終年度概算費用８３億円、釧路市負担費算出が非常に分かりづらいです。それと、全体事業費も平成２８年度に出したもので先ほど説明があったとおり、実際に道路の形とか等いろいろありますので、物価高騰や人件費、資材費も相当いろいろなものが高上りになっていますから、実際に市民の皆さんに説明するときに、例えばお話にあったとおり高架化を行わなかった場合、もう進んでいるので止めるのは難しいとは思いますが。ただ市民の皆さんが、今回市政懇談会を通じてさまざまこれから釧路市厳しいですよ、財政も厳しいですよ、いろいろなものを見直していかなければいけませんよ。その見直しの中に市民に関わるもの、市民サービスに関わるものも多々出てくるはずですよ。水道料金の値上げもしますという説明をしているわけですよ。市民の皆さん痛みが伴いますよという説明をしていることと同じです。同時に、これだけお金がかかる事業をやりますよということも説明しています。ただその中で今言ったように費用はどのくらいかかるのだろうか、どれくらい市民負担と市の負担はあるのだろうか、そして財政は耐えられるのか、市民にどのような影響があるのだろうかと検討するにしても推し量るにしても、これでは雲をつかむような話になってしまって、なかなか市民の皆さんに実態が伝わらないと思います。鉄道高架に関わる事業はＪＲの専門ですから、こちらで言っても簡単に数字が出てこないのは分かるのですが、例えばその当時と今の物価の状況を検討した場合に、概ねこれくらいだと予想されると、ただそれは正確ではないよと。ただこの跨線橋２線架け替えにしても、現在概算８３億円と出ていますけど平成１９年だから、今架け替えるとした場合に実際に市が負担する単費はどれくらいになるのかということも含めて、概算を提示した上で皆さんに説明して、それ

が例えば鉄道高架を実際に行った方が将来の釧路市のため市民の為になるのではないかという判断になるのか、それとも実際に止まるかどうかは別にして鉄道高架やるのであれば跨線橋架け替えの方が将来的にも良いのではないかというような判断になるのか、どちらにしてもそのような情報提供が無いと、なかなか雲を掴むような話で、あちらこちらで話が飛んでいってしまっただけで収集つかなくなってしまうと思います。まずこのところがいかなものかと。

まだ懇談会は続きますし、これからのパブリックコメントもあります。そしてこれは今が釧路市にとってとても大事だと思いますが、説明にありました財政再生団体になるような話はしない方が良いと思います。「釧路市だって赤字になるから財政再生団体になりますよ」等と言うのはそんな急になる話ではないので、別の言い方にした方が良いでしょう。

【都心部まちづくり担当部長】

まず一つ目の跨線橋2橋を架け替えることはいずれ必要になるとして算出年度が非常に古いということはおっしゃるとおりだと思います。釧路市負担額未算出と書いているのは、大変申し訳なかったのですが、今回資料を作るにあたって83億円の内訳がすぐに出てこなかったのは、北中跨線橋については市道で、旭跨線橋については道道なので架け替えるとしたら各々、市は北中跨線橋を架け替えますし北海道が旭跨線橋を架け替えることとなると83億円が、どっちがいくらという内訳が無いためこの場ではお示しできなかったところであります。架け替える場合はこの額の6割が国の予算で残りの4割分が市役所か道かのどちらかで支払うことになります。今回は古くて内訳がなかったところです。鉄道高架の今後の事業費については、先ほども申し上げましたが鉄道高架についても平成28年算出で非常に古いです。これは鉄道高架の延長や線路の本数や一般的な他の鉄道高架の事業費などを参考にして事業費を算出していると思うのですが、今後詳細な金額を把握するために先ほど申しましたが鉄道の線路の切り替えや場所に合わせた積算が必要となるので、JRでなければ算出できません。高架化はすぐ始めるというわけではなく当然JRが全体事業費を算出して釧路市の負担額がいくらになるか、またその他の街路事業や土地区画整理事業等は市役所で算出できますので、鉄道高架の全体事業費が出ることと併せてもちろん市民の皆様方にも全体事業費や市の負担額がいくらになるというのは改めてご説明をいたします。ただ、現時点ではそこまで積算が進んでいないため、お示しすることはできない状態です。

【財政部長】

財政のご指摘ありがとうございます。実は私どもも悩んだところで、令和11

年度の46億円くらいの赤字だと全然夕張市のようにはないというような状況ももちろんあります。なるべく分かりやすい説明はどんな表現かなと思ってお話をしたところなのですが、いただいたご指摘を参考にしながら説明の方法は変えさせていただきたいと思います。

【参加者D】

これだけの大きい事業をやるためには、何十年も前から高架化は出ていますが、具体的に市民に分かるように数字を出して、予算はどのくらいかかるかということを出してこの差額はどのくらいあるか等、そのようなものを出さないと市民は納得しません。ましてやああやるこうやると打ち上げてもだめです。やはり水道のように具体的な数字を出して、数値を出しにくいかもしれませんが、出すことによって事業の内容も皆分かっていますので余計なことを話さなくても分かるように、このような大きい事業を進めるときには具体的な数字を出して市民に納得いく説明をしてもらいたいです。そして、それだけのお金を使うのであれば、まだやらなければいけないことが市にはたくさんあります。例えばインフラにお金を使うようなお金の使い方もあるし、もっと地道にやらなきゃいけない財源の厳しい釧路市がそのようなところにお金をかけている余裕は無いはずです。先を見ることも大事ですが、もう少し地道に取り組んで今の現実のインフラで、もう50年以上経っている、設置は昭和の時代ですから、それらの取り組みを強化してぜひ市民の過ごしやすい生活を描けるような計画を練ってもらいたいと思っています。

【市長】

大きな事業費を要する事業ということで具体的な数字というところがございますが、試算までは関係機関からもあまり容易には出すことが難しいと言われておりまして、昔の数字になってしまったところがありました。そういった部分をなるべく意に沿えるように今後も出せるものは皆様に情報提供させていただきながら進めていきたいと思っています。

【参加者E】

財政状況と事務事業の見直しについて2つだけ話します。一つは決算収支の中で令和6年度の決算で、翌年度返還金が11億円ということだったと思うのですが、過去2年間から比べると2倍になっていると思いますので、増えた要因を具体的に教えていただきたいです。また事務事業見直しの部分で、令和9年度

までに最低限１６億円見直しする必要があると書いていますが、この１６億円はどこから出てきた数字なのかなということを答えられる範囲で教えていただければと思います。

【財政部長】

まず翌年度返還金ですが、特に令和９年度多かったのが生活保護費用と認定こども園の費用、これについてそれぞれ概算で国に申請をしましたが思ったよりは使わなかったということで、例年に比べて余ったので返すということになります。

次に１６億円ですが、今市が使える貯金これが１１９億円でして、今は世の中もいろいろと状況が大きく変わっているため、まず５年間の試算をしましょうということになって、令和１１年度までの試算をすることにしまして、その５年間で基金を最大限入れていくといくら改善が必要なのかという考えで資産をした結果、１６億円という数字が出てきたということです。

【参加者Ｆ】

鉄道高架ですが、まず踏切では駄目な説明をお願いします。ずっと前に踏切を撤去しなければ駄目だということは聞いていますが、どうして踏切に戻すことは駄目なのかを説明してもらってもよろしいでしょうか。

【都心部まちづくり担当部長】

全国的な話でもありますが、鉄道に新しい踏切を設置することは認められないというのが実態です。白糠町で一つ増えたことがあります、それは特例中の特例のような感じで一般的には新しい踏切が認められていないというのが実態でございます。

【参加者Ａ】

釧路市の都心部まちづくりと言っていますが、高架して道路を真っ直ぐにしたら車がスッと通るだけでまちづくりも何も無いのではないのですか。大きく広場を設けるとか、核になるようなものを経由しないと、ただ高架して直通にすると、車がただ通って便利になって近くなったというだけの話で、何も都市づくりやまちづくりにはならないと思います。

また、こういうものを作りたいから土地をこのように設けたいということなら分かりますが、そうせずにただ高架してそのままにしておくのでしたら、土地

作りもなにも無いと思います。

【都心部まちづくり担当部長】

今回ABC案を示させていただきました。もともとの都心部まちづくり計画では、街なかに用事が無い、通過したい車両は都心部を通さないで左右の環状道路的なところに迂回してもらい、都心部を人が歩きやすいまちをつくるというのがもともとの根底にありました。北大通の資料の中にも書いてありますが、現在の計画では駅南側の北大通を4車線から2車線に狭くして、人を中心としたまちづくりにしたいと考えているところです。今回駅の下を直線で通すのですが4車線で通しますと、おっしゃるとおり多くの車が通ると考えられます。今回B案ですと2車線にして直線化で結ぶのですが、2車線で結んだ場合は先ほどのもともとの発想で、都心部に用事が無い通過交通の人は左右の道路を通っていただいて、街なかに用事がある人だけが通るといような考え方です。車線を狭めた際の土地や鉄道下等に新しい土地が生み出されます。そこに拠点となるような公共公益施設等を配置して、人が集まるような場所をつくりたいといような、人が集まるところができるとそこに民間なども進出してくるのではないかといような考え方であります。

また高架から先にやるのかという質問については、現時点でどのような施設が建つということが確定はしてはいないのですが、そちらは並行して協議検討を進めます。

【参加者E】

鉄道の高架化はもともと地震や津波、大雨による洪水等の防災の観点から始まっていたような気がするのですが、このあたりがどうだったのか改めて教えてほしいです。

【都心部まちづくり担当部長】

まず全国的な鉄道高架につきましては、開かずの踏切みたいなものが何か所かございまして、その踏切のところで渋滞しますのでそこを跨線橋といひますか、オーバースの道路を造りましよう、ただ踏切が何か所かあると跨線橋をいくつも造るより鉄道を上げてしまった方が安いよねということで鉄道高架という事業があります。

釧路市の場合はもともと木工所踏切がありますが、そもそも跨線橋が2橋になっているので、こちらについてはまちづくりの観点から鉄道高架事業計画を進めているところです。地震や避難のことをメインとしているわけではなくて、

まちづくりに対して鉄道高架が必要で鉄道高架を上げると、線路が無くなるので南北をつなぐ道路が増えるというような考え方です。

【参加者G】

2車線ということは片側1車線ということだと思いますが、渋滞しないのですか。

【都心部まちづくり担当部長】

B案の2車線で整備した場合は、駅の下を2車線で整備するとともに左右に新しい道路が何本かできるというのと、北大通も2車線に狭めて駅周辺に用事が無い車については外側の道路を通っていただくという考えで、将来の交通量推計では2車線で大丈夫だというような予定になっています。新しい道路が何本かできるので交通が分散します。

【参加者D】

太陽光発電についてですが、これは絶対反対です。その方向で進んでいることはやむを得ないと思いますが、もしこれが世界遺産であれば絶対に建てません。そのため、この辺りをもっとすぐできるような方策は無いのですか。自然破壊と生態系破滅につながることは絶対に駄目です。そのためその業界に対しては拒否して建てられないということを分かっていたかなければ駄目です。そのため市役所や釧路市の頑張りに期待しています。

【市長】

今市役所が取り組んでいる中身は、今おっしゃるような観点に基づいて何とかしたいというところでの工夫です。まず代表的な鳥類やキタサンショウウオを指定して、「まずこれを守りたいのでこれらの保全につながらないような事業は認めませんよ」とこのようなことを打ち出したところです。さまざま法律の縛りや憲法上の財産権の侵害等のさまざまな制約がある中で、実はこのような方策で規制をかけて取り組んでいる自治体は一つありません。無い中で何とかできないかというところで、皆様からさまざま知恵をいただいて何とか絞り出したというのが実態です。また完全に止められるかという、やはり制約があってゼロにはできないだろうと思います。しかし皆様の意見をいただいて我々も勇気を持ってさらに今後大きなうねりとなって、こういった方向性がこの日本にとって良いのかというところがもう一つ声が大きくなれば、我々ももう少し

踏み込んだ対応ができるのではないかと今頑張っているところです。まずこの条例を早期に制定しまして、一步踏み出したいと思っているところです。

【参加者A】

全国で条例を作った方が良いと思いますが、釧路市の大自然は絶対に守っていただきたいです。条例を作って、業者がソーラーパネルを作ったら市にいくら入るということはあるのでしょうか。それとも厳しく罰則や刑事罰を設けるような条例になるのかをお聞きしたいです。

【市民環境部長】

まず条例によって市にお金が入ってくるということはありません。また罰則ですが、条例である以上法律を超えての罰則は設けられません。しかし条例に違反している事業者につきましては、事業者名を公表いたします。自治体が設ける過料はせいぜい数万円程度のものが上限になっておりまして、実はそのような罰金よりもこの公表というところのダメージが非常に大きいと我々は思っています。実際釧路は注目されておりますので、釧路でこういった条例を犯した事業者となると、恐らく相当なダメージをこの国内では受けるだろうと思っておりますので、そういったところを抑制として今回条例を目指しているというところでご理解をいただきたいと思えます。

また、施設ができれば一般的に固定資産税は入りますが、例えば太陽光パネルができて儲けがでると、「何%差し上げますので使ってください」という仕組みで地域の循環というのは、本当は必要だと思っています。それが無いにも関わらず貴重な自然と調和をしていないところに建ってしまうことが非常に問題だということがあります。しかしこれにつきましては、なかなか自治体単独実施だけでは解決が難しいので、この春から市長を先頭に国や北海道に対して「実際にその辺りはどうなんだ」ということで根本的に法律等から何とかしてくれないかというお願いをしています。皆様から今こういった意見があってそれが非常に大きな力になりますので、また改めて訴えていきたいと思っています。

【参加者B】

意見なのですが、法律を超えるような条例はできないとおっしゃっていましたが、自治法改正の中で地方自治体と国は対等の立場になっていますので、その点ではちゃんと話し合っていけば遠慮することなく条例を作ることができます。その辺りはしっかり理解した方が良いと思います。そしてもう一つは、巨大な開

発を目の前に準備しておいて、一方で公共料金は値上げしなければならないかもしれないなんてとんでもない話です。市の財政は身の丈に合わせた財政計画を立てないと駄目です。そして、「橋が壊れる」や、「60年経った」みたいなことを言いますが、いずれ線路も無くなるのですから知恵を出して修理すれば良いです。そして1番大事なことで実際に話に出てこないのは防災です。地震と津波で8万人が亡くなるのではないと言われて日本の中で1番危険なまちになっています。1番致死率が高いのではないですか。大楽毛、白糠町、釧路町は避難所作ると言っていますが、釧路はそのことについて一切黙っています。それはまちづくりの再開発があるからではないですか。とにかくあちこちで防災や避難所と言っても一切黙っています。これは重大な問題です。

【参加者F】

ソーラーパネルの件で、規制をかけるのは平米数なのかパネルの枚数なのか仕事量なのかをまず聞きたいです。そして、廃棄費用積立費等の決算書の提出も求めた方がよろしいのではないのでしょうか。

また、市役所の前のフードトラックは大体毎日来ているのですか。せっかくキッチンカーを呼んでも来ているのか来ていないのか分かりません。LINEや市役所の壁、入り口のところに何が来るのかというところの広報をうまくやっていただきたいと思います。市役所は大体月に1回何かの用事で行きます。分かっているのに寄りたいと思ったりもします。鉄道高架圏ににぎわいを戻したいと言っているのにそういうところがおざなりなので、やっていかないと衰退の一途を辿って駅前ほとんど用事も無いということになってしまうので、その辺りを頑張っていただければと思います。

【市民環境部長】

規制の関係ですが、条例上10キロワット以上の太陽光パネルはすべて規制の対象のため許可制となります。特定の希少種の関係につきましてはまず区域をつくっていますので、そこでの調査が必ず必要です。一方でご指摘のあった決算、こういったものを出してもらうのかというのは今ご意見をいただきましたので、それを踏まえて考えていきたいと思っています。

【市長】

キッチンカーの出店は増えてきていますが、民間企業の宣伝を釧路市役所が率先してやるのは中々難しいです。しかし、どのようなところが広場に出てきているのかということを経営者から聞き取れないかどうか、担当部署と相談させてもら

います。